資料７

平成 31 年３月 13 日
(公財)広島市農林水産振興センター

# 平成 30 年度シジミを増やす取組について

## 1　概要及び目的

(公財)広島市農林水産振興センターでは、シジミ種苗の効果的な放流により太田川のシジミ資源を回復させる方針の基、平成 26 年度から、他産地の種苗や試験的に生産した人工種苗を用いて成育状況調査を行ってきた。その結果、ネット被覆などの方法や他産地産の種苗を用いた場合は、生残率が低くなり、有効な放流方法は確認できなかったが、人工種苗を塩ビ管に収容した場合は、生残率が高くなることや収容後約 1 年半で成熟サイズまで成長することが明らかとなった。また、毎年一定量の天然稚貝が確認されている資源状況等調査の結果から、母貝が増加すれば、資源が増加する可能性が示唆された。

このため、平成 30 年度に、人工種苗を塩ビ管に収容し、母貝として保護することで再生産の向上を図ることにより、資源を回復する方針に転換し、適切な種苗の収容密度や管理方法を検討することを目的に、引き続き成育状況調査を行うとともに、その効果検証を行うため資源状況等調査を行った。

## 2　調査内容

### ⑴　人工種苗成育状況調査

平成 30 年 10 月に人工種苗を収容後、3 ヶ月経過した平成 31 年 1 月の結果は表 1 のとおり。
水温が低い時期であるため、収容密度に関わらず、種苗の成長はほとんど確認されなかった。
生残状況は概ね 90%以上であった。

表 1　収容密度別の生残率及び平均殻長（収容から 3 ヶ月経過）

| | 10月22日(種苗収容) | 1月22日 | |
|---|---|---|---|
| 収容密度 | 平均殻長(㎜) | 平均殻長(㎜) | 生残率(%) |
| 10万個体 | 0.7 | 0.5 | 97.1 |
| 5万個体 | 0.7 | 0.7 | 95.2 |
| 1万個体 | 0.7 | 0.6 | 90.0 |

### ⑵　資源状況等調査

春、秋とも、天然稚貝は確認されたが、産卵に寄与するとされる殻長 12 ㎜以上の個体は、ほとんど確認されなかった。(図 1)

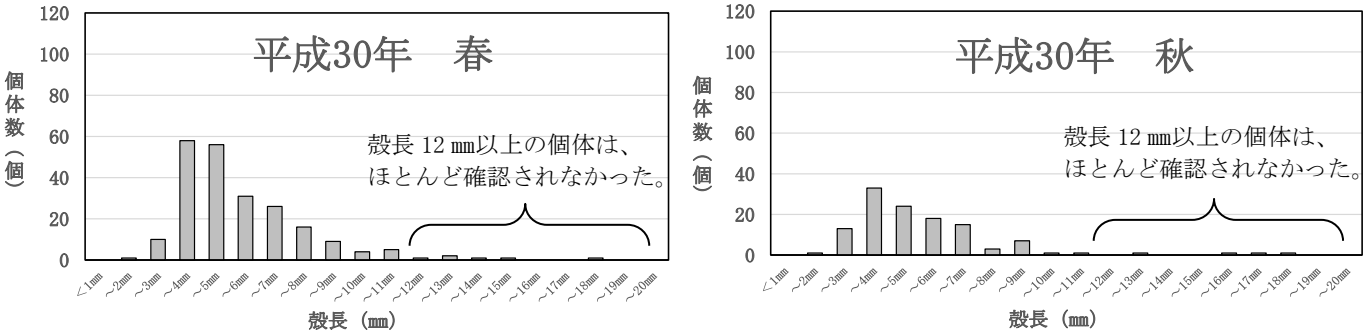


図 1　平成 30 年度資源量調査結果（殻長別、春・秋）

## 3　今後の予定

### ⑴　人工種苗成育状況調査

収容後、サンプリング未実施の試験区において、平成 31 年 9 月（設置から約 1 年後）に最終的な生残状況及び成育状況等を確認し、塩ビ管の最適な収容数を求める。

### ⑵　シジミ資源状況等調査

シジミ資源状況等調査を春と秋に実施し、資源量を把握する。